

職業実践専門課程等の基本情報について

学校名		設置認可年月日		校長名		所在地																														
＜専＞YIC京都工科自動車大 学校		平成19年1月22日		佐々木 章		〒 600-8236 (住所) 京都府京都市下京区油小路塩小路下ル西油小路町27 (電話) 075-371-4040																														
設置者名		設立認可年月日		代表者名		所在地																														
学校法人YIC学院		平成19年1月22日		井本 浩二		〒 600-8236 (住所) 京都府京都市下京区油小路塩小路下ル西油小路町27 (電話) 075-371-4040																														
分野	認定課程名	認定学科名		専門士認定年度	高度専門士認定年度	職業実践専門課程認定年度																														
工業	工業専門課程	一級自動車整備科		-	平成22(2010)年度	平成26(2014)年度																														
学科の目的	<p>良識ある社会人として必要な資質を持ち、地域社会の発展に貢献できる自動車業界のスペシャリストとして活躍できる人材を育成する。具体的には</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 自動車の安心・安全な交通環境の実現のために正しい知識と高い倫理観を持った人材 2. 即戦力だけでなく、変わり続ける時代の中で、専門的知識・専門的技術を十分持ちながら、常に進化し続ける自動車に対し柔軟に対応するため、就職後も技術を研鑽し知恵を蓄え、職業人としての使命感と豊かな人間性を備えた人材。 3. 利他の精神で働くことに社会的意義を感じ、将来自動車業界の指導的立場やリーダーとなりうる人材。 4. 自動車整備科の要件に加えて、一級自動車整備士の国家資格の取得。 5. 自動車のメンテナンスに対して、単なる故障診断ではなくどのように悪いのかを判断できる高度な専門的知識・専門的技術。さらに、IT、電子制御、ハイブリット技術など、自動車技術の進化に伴う、整備士に求められるハイレベルな能力を習得した人材。 6. 確かな整備技術と信頼。エンジニアとしての能力に加えサービスなどのスキル、整備の基本はもちろん、最新の車種に対応した整備技術、エコや整備工場におけるリサイクル・環境保全の管理、そしてユーザーとの信頼関係を構築するための保守管理、カーライフのアドバイスなどができる人材。 7. 就職後も技術を研鑽し知恵を蓄え、電気自動車等、進化し続ける自動車に対応できる素養を備えた人材。 																																			
学科の特徴(取得可能な資格、中退率等)	第一種自動車整備士養成国土交通大臣の指定した自動車整備士養成施設施設校。一級自動車整備士養成課程																																			
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数		講義	演習	実習	実験	実技																												
4年	昼間	※単位時間、単位いずれかに記入	単位時間 136 単位	単位時間 60 単位	単位時間 単位	単位時間 92 単位	単位時間 単位	単位時間 単位																												
生徒総定員	生徒実員(A)	留学生数(生徒実員の内数)(B)		留学生割合(B/A)																																
80人	61人	0人		0%																																
就職等の状況	<table border="1"> <tr><td>■卒業者数(C)</td><td>11</td><td>人</td></tr> <tr><td>■就職希望者数(D)</td><td>11</td><td>人</td></tr> <tr><td>■就職者数(E)</td><td>11</td><td>人</td></tr> <tr><td>■地元就職者数(F)</td><td>4</td><td>人</td></tr> <tr><td>■就職率(E/D)</td><td>100</td><td>%</td></tr> <tr><td>■就職者に占める地元就職者の割合(F/E)</td><td>36</td><td>%</td></tr> <tr><td>■卒業者に占める就職者の割合(E/C)</td><td>100</td><td>%</td></tr> <tr><td>■進学者数</td><td>0</td><td>人</td></tr> <tr><td>■その他</td><td></td><td></td></tr> </table> <p>(令和5年度卒業者に関する令和4年5月1日時点の情報)</p> <p>■主な就職先、業界等 (令和5年度卒業生) ホンダ技研工業株式会社、株式会社シュテルン大津、ネットヨタヤサカ株式会社、株式会社関西マツダ、京都トヨペット株式会社、いすゞ自動車近畿株式会社、京都三菱自動車販売株式会社、奈良トヨタ自動車株式会社、株式会社ヤナセ</p>								■卒業者数(C)	11	人	■就職希望者数(D)	11	人	■就職者数(E)	11	人	■地元就職者数(F)	4	人	■就職率(E/D)	100	%	■就職者に占める地元就職者の割合(F/E)	36	%	■卒業者に占める就職者の割合(E/C)	100	%	■進学者数	0	人	■その他			
■卒業者数(C)	11	人																																		
■就職希望者数(D)	11	人																																		
■就職者数(E)	11	人																																		
■地元就職者数(F)	4	人																																		
■就職率(E/D)	100	%																																		
■就職者に占める地元就職者の割合(F/E)	36	%																																		
■卒業者に占める就職者の割合(E/C)	100	%																																		
■進学者数	0	人																																		
■その他																																				
第三者による学校評価	<p>■民間の評価機関等から第三者評価: 無</p> <p>※有の場合、例えば以下について任意記載</p> <p>評価団体: - 受審年月: - 評価結果を掲載したホームページURL: -</p>																																			
当該学科のホームページURL	https://www.yic-kyoto-technical.ac.jp/																																			
企業等と連携した実習等の実施状況(A、Bいずれかに記入)	<p>(A: 単位時間による算定)</p> <table border="1"> <tr><td>総授業時数</td><td>単位時間</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数</td><td>単位時間</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した演習の授業時数</td><td>単位時間</td></tr> <tr><td>うち必修授業時数</td><td>単位時間</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数</td><td>単位時間</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した必修の演習の授業時数</td><td>単位時間</td></tr> <tr><td>(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)</td><td>単位時間</td></tr> </table> <p>(B: 単位数による算定)</p> <table border="1"> <tr><td>総授業時数</td><td>11 単位</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数</td><td>11 単位</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した演習の授業時数</td><td>単位</td></tr> <tr><td>うち必修授業時数</td><td>11 単位</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数</td><td>11 単位</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した必修の演習の授業時数</td><td>単位</td></tr> <tr><td>(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)</td><td>8 単位</td></tr> </table>								総授業時数	単位時間	うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数	単位時間	うち企業等と連携した演習の授業時数	単位時間	うち必修授業時数	単位時間	うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数	単位時間	うち企業等と連携した必修の演習の授業時数	単位時間	(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)	単位時間	総授業時数	11 単位	うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数	11 単位	うち企業等と連携した演習の授業時数	単位	うち必修授業時数	11 単位	うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数	11 単位	うち企業等と連携した必修の演習の授業時数	単位	(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)	8 単位
総授業時数	単位時間																																			
うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数	単位時間																																			
うち企業等と連携した演習の授業時数	単位時間																																			
うち必修授業時数	単位時間																																			
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数	単位時間																																			
うち企業等と連携した必修の演習の授業時数	単位時間																																			
(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)	単位時間																																			
総授業時数	11 単位																																			
うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数	11 単位																																			
うち企業等と連携した演習の授業時数	単位																																			
うち必修授業時数	11 単位																																			
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数	11 単位																																			
うち企業等と連携した必修の演習の授業時数	単位																																			
(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)	8 単位																																			
教員の属性(専任教員について記入)	<table border="1"> <tr> <td>① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者 (専修学校設置基準第41条第1項第1号)</td> <td>14人</td> </tr> <tr> <td>② 学士の学位を有する者等 (専修学校設置基準第41条第1項第2号)</td> <td>人</td> </tr> <tr> <td>③ 高等学校教諭等経験者 (専修学校設置基準第41条第1項第3号)</td> <td>人</td> </tr> <tr> <td>④ 修士の学位又は専門職学位 (専修学校設置基準第41条第1項第4号)</td> <td>人</td> </tr> <tr> <td>⑤ その他 (専修学校設置基準第41条第1項第5号)</td> <td>人</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>人</td> </tr> </table> <p>上記①～⑤のうち、実務家教員(分野におけるおおむね5年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定)の数</p> <p>14人</p>								① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者 (専修学校設置基準第41条第1項第1号)	14人	② 学士の学位を有する者等 (専修学校設置基準第41条第1項第2号)	人	③ 高等学校教諭等経験者 (専修学校設置基準第41条第1項第3号)	人	④ 修士の学位又は専門職学位 (専修学校設置基準第41条第1項第4号)	人	⑤ その他 (専修学校設置基準第41条第1項第5号)	人	計	人																
① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者 (専修学校設置基準第41条第1項第1号)	14人																																			
② 学士の学位を有する者等 (専修学校設置基準第41条第1項第2号)	人																																			
③ 高等学校教諭等経験者 (専修学校設置基準第41条第1項第3号)	人																																			
④ 修士の学位又は専門職学位 (専修学校設置基準第41条第1項第4号)	人																																			
⑤ その他 (専修学校設置基準第41条第1項第5号)	人																																			
計	人																																			

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

・教育課程編成委員会において、学校の方針・編成に対する企業等による意見・提案をいただき、教育課程の編成をより職業実践的にすべく内容改変あるいは新規導入等の可否を検討する。さらに、企業等による連携授業・教職員の技術研修、学生の実務研修、就職指導等の協力・実施計画等併せて討議する。これらの結果は、基本的には次年度の教育課程編成に適用する。

・編成委員会の意見・要請は教育課程の編成に十分生かすものの、最終的には学校の教育理念に沿ったものであることを前提に、編成した教育課程は最終的に校長認可の上実施する。

進歩している業界の知識・技術を取り入れ、教育課程を「生きた」ものにするために教育課程編成委員会を組織する。

より業界のニーズに沿った人材育成に係わっていただき、PDCAのサイクルを回して、教育の硬直化を避け、就職率・定着率のアップを産・学・官・民協力の下、推進していくことが目的。

より実践的、業界事情にあった科目を展開するべく委員それぞれの立場や視点からの率直なご意見をいただきながら、教育課程の各科目の内容・シラバスなどを検討していただき、新たな導入・内容改善・時数設定などの検討を行う。

専門性に関する動向や地域産業振興の方向性等について意見交換等を通じて、より実践的な職業教育の質を確保することを目的とした委員会を置く。

委員会は、次の各号に掲げる事項を審議し、会議の結果をカリキュラム検討会議に報告するものとする。

(1)カリキュラムの企画・運営・評価に関する事項

(2)各授業科目の内容・方法の充実及び改善に関する事項

(2)教科書、教材の選定に関する事項

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

・機関企業等からの提言・意見を反映し、職業実践的な教育を行うための、教育課程編成における諮問機関である。

・学校運営から独立した機関であり、理事会直結の諮問機関とする。

・臨時委員会は、各種検定資格の内容変更・新技術の導入・業界の新しい動向により教育課程編成を変更・追加が必要になった場合などに委員の要請により開催する。必要に応じ当該関係者の意見を聴取することもある。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和6年7月31日現在

名前	所属	任期	種別
乗地 博之	一般社団法人 京都府自動車整備振興会 教育課 課長	令和5年4月1日～令和7年3月31日	①
藤崎 修	ネットヨタ京華株式会社 執行役員 統合管理本部 副本部長	令和5年4月1日～令和7年3月31日	③
鳥居 和浩	滋賀ダイハツ販売株式会社 代表取締役	令和5年4月1日～令和7年3月31日	③
後藤 佳也	いすゞ自動車近畿株式会社 人材開発部 部長	令和5年4月1日～令和7年3月31日	③
嶋 雅明	有限会社嶋自動車電機 代表取締役	令和5年4月1日～令和7年3月31日	③
木下 敬朗	株式会社レオタニモト サービス サポート部 部長	令和5年4月1日～令和7年3月31日	③
佐々木 章	〈専〉YIC京都工科自動車大学校 校長	-	-
小林 建次	〈専〉YIC京都工科自動車大学校 教務課長	-	-
澤 智春	〈専〉YIC京都工科自動車大学校 総合支援課長	-	-
山根 大助	〈専〉YIC京都工科自動車大学校 管理部長	-	-

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「-」を記載してください。)

①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)

②学会や学術機関等の有識者

③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回(6月、11月)

(開催日時(実績))

第1回 令和6年6月14日 15:20～17:00

第2回 令和6年11月15日 13:30～15:30予定

(5) 教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

・資格について2023年度の資格検定の合格状況について別途資料の内容について

前年度と比較し合格率が下がっている検定もあり、それぞれの検定に対しての必要性などを学生自身が感じる機会がないことなどが、検定取得に対するモチベーションを維持出来なかった結果とを感じる。ただし、整備士資格試験については高い合格率に戻すことができた。

・昨年度の就職状況について

就職活動においても意識が非常に高く、メーカーへの内定、および販売店に内定した。

・学びにおいて

□新技術に関する研究を行っているが、教育機関だけの取り組みとして限界がある。企業様と連携した取り組みを検討。

□業界研究の内容として昨今話題になっている不正問題など、今後、自動車業界を担う若者を育てる教育機関としてコンプライアンスの教育が今後の課題。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1) 実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

企業等が求める職業実践的な人材像と学校が送り出す人材像とのギャップを埋め、卒業生の質を保証し本校の教育理念を果たすために企業等との連携は必須である。ギャップは社会の変化、技術進歩に学校が追いついていないところにあると考える。企業等との連携により、教職員の教育研修に注力するとともに、企業等による連携授業、実務実習(体験実習としてインターンシップ)等積極的に行う。指定教育時間数は200時間以上となっている。

(2) 実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

企業技術講習の科目では、国内外の自動車メーカーの販社(ディーラー)との連携により、最新の車両を持ち込んでいただいている最新技術や、業界の近況を学習する。また、キャリアデザインの授業では、メーカーで入社後に行われる新人研修の一部を授業として実施し、学生にも体験させ、就職して必要なスキルを事前に学習する。

(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
企業技術講習Ⅰ	国内外の自動車について、最新技術を学ぶために各自動車メーカー様、及び各販売会社様から講師を招くと共に新型車両を持ち込んでいただき授業を行う。	・京都トコヘット株式会社 ・株式会社京滋マツダ ・京都三菱自動車販売株式会社グループ ・株式会社スズキ自販京都 ・カワサキモータースジャパン他9社
企業技術講習Ⅱ	いすゞ自動車(株)教育部の講師を中心にいすゞ自動車製k型トラック(ELF)を教材としてディーゼル大型車両実習および外部診断機等を利用した点検整備技術を学ぶ	いすゞ自動車近畿株式会社

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係	
<p>(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針 ※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記 ・学生・保護者・地域社会(企業)に対して本校の卒業生の質を担保するためには、教職員の教育力の向上が必須である。「学校法人YIC学院教職員研修規程」に基づき、①担当分野の実務、②インストラクショナルスキル、③学生指導・就職指導、④学校運営 についての研修を計画的に行う。教育研修は、学校関係者すべてに関わるものであり、自己啓発を含め積極的に支援する。年度研修は研修計画に沿って行い、スポット研修は随時行う。</p>	
<p>(2) 研修等の実績 ① 専攻分野における実務に関する研修等</p>	
<p>研修名: 日産技術講習会 期間: 2023年8月2日 内容: 1. 日産自動車考える技術の方向性 2. 電動化技術開発 3. 知能化技術開発 4. モビリティの新しい価値</p>	<p>連携企業等: 日産自動車株式会社 対象: サービスエンジニア</p>
<p>研修名: JAMCA 新技術・車両診断研修会 期間: 2023年8月7日～10日 内容: ・ハイブリッド車の駆動システムと制御 ・電動車の電気システム ・知能化について</p>	<p>連携企業等: JAMCA全国自動車大学校整備専門学校協会 対象: 教員 ・電動車両の駆動モータ制御機構 ・クルマの電動化 ・次世代自動車の回生ブレーキシステム</p>
<p>② 指導力の修得・向上のための研修等</p>	
<p>研修名: 「学生とのコミュニケーション向上スキル」 期間: 令和5年8月22日(火) 内容: Z世代の特徴とコミュニケーションの取り方</p>	<p>連携企業等: キャリアコンサルタント 産業カウンセラー 村上恵子先生 対象: 教員</p>
<p>研修名: ハラスメント研修会 期間: 2024年3月22日(木) 内容: 事業所におけるハラスメント法整備、学校・事業所におけるハラスメント防止から法人のリスクマネジメントについて事例から学ぶ。</p>	<p>連携企業等: 0 対象: 教職員</p>
<p>研修名: アンラーニングからはじめるリスクリング 期間: 2023/7/1 内容: ■プログラムの開発背景 ■リスクリングを促す「変化創出モデル」と本プログラムの位置づけ ■リスクリングとアンラーニングの関係 ■プログラムの対象・特徴・概要</p>	<p>連携企業等: パーソナル総合研究所 対象: 教員</p>
<p>(3) 研修等の計画 ① 専攻分野における実務に関する研修等</p>	
<p>研修名: 新技術・車両診断研修会 期間: 2024年8月7日 内容: 0</p>	<p>連携企業等: JAMCA全国自動車大学校整備専門学校協会 対象: 0</p>
<p>研修名: 一級自動車整備士講習会 期間: 2024年8月19日 内容: 0</p>	<p>連携企業等: 自動車整備振興会連合会 対象: 0</p>
<p>② 指導力の修得・向上のための研修等</p>	
<p>研修名: シラバス・コマシラバスの作成について 期間: 2024年8月23日(金) 内容: 学校の規定に基づくシラバスおよび授業計画としてのコマシラバスの作成について次年度の担当科目について実践的にその作成について学ぶ。</p>	<p>連携企業等: 本校主催 対象: 教員</p>
<p>研修名: ロイロノート研修会 期間: 2024年5月14日(火) 内容: 京都府、滋賀県の小中高で導入実績のある授業支援クラウドICTツール「ロイロノート・スクール」についてオンライン研修を行う。基本的な使い方、実践事例を紹介していただく。また、実際にアカウントへのログインなど操作についても学ぶ。</p>	<p>連携企業等: 株式会社LoiLo 対象: 教職員</p>

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

「専修学校における学校評価ガイドライン」で示された企業等と具体的な連携の視点から検証した自己点検評価について、企業と学校関係者からなる「学校関係者委員会」の評価・助言・提言を受ける。学校評価委員会においては、本校が行う自己点検評価の結果と根拠を示し、とくに職業実践的な教育活動に適したものであるかなど、当該年度の重点項目を中心に意見等をまとめる。結果を反映した実行計画を作成し、次年度の重点項目を定め、学校教育・学校運営を行い、本校の概念である「地域社会の発展に貢献する、地域の皆さんのための教育機関」の実現に注力する。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	1 教育理念・教育目標
(2) 学校運営	2 学校運営、3 教育活動、9 財務
(3) 教育活動	3 教育活動、8 教育の内部質保証システム
(4) 学修成果	4 学習成果、8 教育の内部質保証システム
(5) 学生支援	5 学生支援
(6) 教育環境	6 教育環境
(7) 学生の受入れ募集	7 学生の受入れ募集
(8) 財務	9 財務
(9) 法令等の遵守	2 学校運営、8 教育の内部質保証システム、9 財務
(10) 社会貢献・地域貢献	10 社会貢献・地域貢献
(11) 国際交流	11 国際交流

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

1. 教育内容の改善を図るため、教職員と非常勤講師等との定期的な情報交換を行っているか
→懇談会、研修の機会を設け、スキルアップを含めて対話の機会を設ける。
2. 学習参加の前提としているスキルや要件などに不足がないかを確認するためのアンケートやヒアリングを行っているか
→入学前研修の際に学力テストを実施する等、現在の入学前学習も含めて運用を検討する。
3. 授業改善全般に関して
→授業改善後の改善状況を報告し、改善状況の進捗を確認する。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

名前	所属	任期	種別
矢川 賢治	一般社団法人 京都府自動車整備振興会 専務理事	2023年4月1日～2025年3月31日(2年)	業界団体
藤崎 修	京都トヨベット株式会社、ネッツトヨタ京華株式会社 執行役員 統合管理本部 副本部長	2023年4月1日～2025年3月31日(2年)	業界企業
鳥居 和浩	滋賀ダイハツ販売株式会社 代表取締役	2023年4月1日～2025年3月31日(2年)	業界企業
後藤 佳也	いすゞ自動車近畿株式会社 人材開発室 教育部 部長	2023年4月1日～2025年3月31日(2年)	業界企業
嶋 雅明	有限会社嶋自動車電機 代表取締役	2023年4月1日～2025年3月31日(2年)	業界企業
木下 敬朗	株式会社レオタニモト サービス サポート部 部長	2023年4月1日～2025年3月31日(2年)	業界企業
水元 友哉	ネッツトヨタ京華株式会社 宇治店 サービスエンジニア	2023年4月1日～2025年3月31日(2年)	卒業生
吉田 怜司	ネッツトヨタ京華株式会社 吉祥院店 サービスエンジニア	2023年4月1日～2025年3月31日(2年)	卒業生

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例) 企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ・広報誌等の刊行物・その他())

URL: <https://www.yic-kyoto-technical.ac.jp/disclosure/>

公表時期: 令和6年7月31日現在

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の趣旨に則り、原則として、ガイドラインが推奨する内容（提供する情報の項目例）全てについて、ホームページ上にて情報提供する。教育活動、その他学校運営の状況、これらの結果は、企業、在学生、卒業生、保護者等関係者にホームページなどに公開・提供していることを、学校便り、オープンキャンパス、案内資料、企業説明会などで広く周知し、理解を得る。企業との連携による職業実践教育を行うためには、企業に対して本校の理念、教育活動の理解が前提であり、具体的な連携を計画する際の基本資料として提示・説明することで企業の協力が得られるものとする。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	学校概要、教育目標
(2) 各学科等の教育	学科紹介、学科別教育課程、各学科科目別シラバス、卒業要件、カリキュラム
(3) 教職員	教員数、学校組織一覧、
(4) キャリア教育・実践的職業教育	キャリア教育、教育課程編成委員会
(5) 様々な教育活動・教育環境	企業連携授業
(6) 学生の生活支援	ひとり暮らしサポート制度、奨学金窓口の設置、個別相談窓口設置
(7) 学生納付金・修学支援	修学支援新制度、財務報告
(8) 学校の財務	財務報告
(9) 学校評価	自己点検・評価結果の公表、学校関係者評価委員会
(10) 国際連携の状況	
(11) その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

(ホームページ・広報誌等の刊行物・その他())

URL: <https://www.yic-kyoto-technical.ac.jp/disclosure/>

公表時期: 2024/7/31

授業科目等の概要

(工業専門課程 一級自動車整備科)																
	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
1	○			エンジン構造Ⅰ	ガソリン・エンジンに関する基礎知識（エンジン本体、潤滑装置、冷却装置、燃料装置、吸排気装置など）を学習し、理解する。二輪自動車のエンジン関係の構造に於ける基礎知識と作動原理について勉強する。	1年前期	30	1	○			○		○		
2	○			エンジン構造Ⅱ	ディーゼル・エンジンとは何か、ガソリン・エンジンとの構造や作動の違い、共通点等を学習する。二輪自動車のエンジン関係の構造に於ける基礎知識と作動原理について勉強する。	1年後期	30	1	○			○		○		
3	○			シャシ構造Ⅰ	三級自動車シャシ教科書を元にシャシに関する構成及び作動について勉強する。二輪自動車のシャシ関係の構造に於ける基礎知識と作動原理について勉強する。	1年前期	30	1	○			○		○		
4	○			シャシ構造Ⅱ	三級自動車シャシ教科書を元にシャシに関する構成及び作動について勉強する。二輪自動車のシャシ関係の構造に於ける基礎知識と作動原理について勉強する。	1年後期	30	1	○			○		○		
5	○			電気工学Ⅰ	電気の基礎的な内容及び自動車の各装置について、実習授業と連動させた内容で基礎的な構造作動を学習する。二輪自動車の電装部品の構造、作動について基礎知識を学習する。	1年前期	30	1	○			○		○		
6	○			電気工学Ⅱ	電気の基礎的な内容及び自動車の各装置について、実習授業と連動させた内容で基礎的な構造作動を学習する。二輪自動車の電装部品の構造、作動について基礎知識を学習する。	1年後期	30	1	○			○		○		
7	○			基礎自動車工学Ⅰ	自動車整備を本格的に学んでいくために求められる基礎知識および原理の概要を習得する	1年前期	30	1	○			○		○		
8	○			基礎自動車工学Ⅱ	自動車整備を本格的に学んでいくために求められる基礎知識および原理の概要を習得する	1年後期	30	1	○			○		○		
9	○			自動車工学	1年生の各科目で学んだ基本的な計算問題や基礎工学的な知識を、二級整備士レベルに高める。整備士に求められる図表の読み方や計算問題の理解力を、共に解いていくことで高めていく。最終目標である国家試験合格を目指し、て実際に出題された当該分野の問題を解くコツを身につける	2年前期	30	1	○			○		○		
10	○			オートメーション基礎	自動運転や自動ブレーキなどの日々進化を続ける最新技術に対して、各メーカーの考え方や技術を理解する。オートメーション化に使用されているセンサやECUの制御、センサの調整方法などを理解し、自動車整備士に必要な知識を学習する。	1年前期	30	1	○			○		○		

(工業専門課程 一級自動車整備科)															
分類	授業科目名			授業科目概要	配当 年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
								講 義	演 習	実験・実習・実技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
必修	選択必修	自由選択													
11	○		IT・マテリアル	2万点以上に上る自動車部品に使用される金属・非鉄金属・樹脂・ガラスなどの原料の材質・製造方法・用途を理解する。PCを使用しWordとExcelについても併せて学び、CADなどPCを使用した製図の基盤とする。	1年後期	30	1	○			○		○		
12	○		新エネルギー工学	自動車の内燃機関だけではなく、脱炭素社会で必要となるエネルギー源について学ぶ。水素燃料電池や電気エネルギーなどに移行する今後の課題について考える。	2年前期	30	1	○			○		○		
13	○		危険物	消防法により危険物に指定されている自動車にとって欠かすことのできない燃料のガソリン・軽油や潤滑剤のエンジンオイル・ミッションオイルなどの知識を知ることによって安全に取り扱うことが出来るようになる。	1年前期	48	2	○			○		○		
14	○		新自動車工学E	自動車の各装置の電子制御化が進む中、整備技術の内容も大きく変わりつつあり、エンジン関係では、電気回路に加えてハイブリッド車、圧縮天然ガス自動車、筒内噴射式エンジン、コモンレール式噴射システム等について	3年前期	30	1	○			○		○		
15	○		新自動車工学C	自動車の各装置の電子制御化が進む中、整備技術の内容も大きく変わりつつあり、シャシ関係では、電気回路に加えてCVT、車両安定制御装置、SRSエア・バッグ、プリテンション・シートベルト等について講義する	3年後期	30	1	○			○		○		
16	○		材料CAD	自動車には多岐にわたる種類の材料が使用されているが、どのような材料を選ぶかによって製造費用と製造技術に関係してくる。最近の自動車は、自動車の高性能化、経済性の観点から軽量化しつつ、耐久性及び信頼性を向上	3年後期	30	1	○			○		○		
17	○		エンジン整備I	1年時に学んだガソリン・エンジンの本体や各装置の基本構造と機能を理解したうえで、より詳細な特徴や新機構について学ぶ。	2年前期	30	1	○			○		○		
18	○		エンジン整備II	1年時に学んだディーゼル・エンジンの本体や各装置の基本構造と機能を理解したうえで、より詳細な特徴や新機構について学ぶ。	2年後期	30	1	○			○		○		
19	○		シャシ整備I	二級自動車シャシ編の教科書に基づきシャシに関する構造及び機能についての知識を身につける。	2年前期	30	1	○			○		○		
20	○		シャシ整備II	二級自動車シャシ編の教科書に基づきシャシに関する構造及び機能についての知識を身につける。	2年後期	30	1	○			○		○		
21	○		電装整備I	二級整備士の知識である各電装装置の単体学習は1年次に終了しているが、実車においては整備作業や制御が複雑となる。1年次に学習した各装置の主に電子制御を中心に学習をする	2年前期	30	1	○			○		○		
22	○		電装整備II	二級整備士の知識である各電装装置の単体学習は1年次に終了しているが、実車においては整備作業や制御が複雑となる。1年次に学習した各装置の主に電子制御を中心に学習をする	2年後期	30	1	○			○		○		

(工業専門課程 一級自動車整備科)																
	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
23	○			故障探究	自動車の各装置の基本構造と機能を理解した上で、故障の原因を知り故障探究の進め方を学ぶ。	2年後期	30	1	○			○		○		
24	○			高度エンジン整備技術	自動車用エンジンの電子化に伴う整備技術の基礎となる電気回路の読み方から応用整備の方法までを学習する。また、最新の機器を使用した整備の方法も併せて学習する。	3年通期	60	2	○			○		○		
25	○			高度電装品整備技術	シャシ電子制御装置のテキストについて、各種のセンサや信号についての講義を行った後、本編のテキストの内容に入る。シャシ分野の中では他のセンサ、及びアクチュエータとは違った制御を行うオート・エア・コンディショナについて講義を行う。加えて、振動と騒音について実習と連動しながら故障部位の特定方法を学ぶ。	3年後期	30	1	○			○		○		
26	○			高度シャシ整備技術	シャシ電子制御装置について、各種のセンサや信号についての講義を行った後、AT、EPS、及びABSについてシャシ電子制御装置に使用されているセンサ、アクチュエータの構造・機能、及びコントロール・ユニットの回路構成信号形態、異常検知、回路点検の方法を習得する。	3年通期	60	2	○			○		○		
27	○			故障診断技術E	一級自動車整備士が担っていく社会的に重要なテーマとして、多様化する自動車エンジン電子制御装置の電気回路、電源関係、センサ関係、アクチュエータ関係、通信関係及び、制御関係について、基本と応用知識を活用した実践的な診断整備技術の手法を講義する。	4年後期	30	1	○			○		○		
28	○			故障診断技術C	一級自動車整備士が担っていく社会的に重要なテーマとして、多様化する自動車シャシ電子制御装置の電子制御式オートマチック・トランスミッション、電動式パワー・ステアリング、アンチロック・ブレーキ・システム、オート・エア・コンディショナと自動車に発生する振動・騒音について、基本と応用知識を活用した実践的な診断整備技術の手法を講義する。	4年前期	30	1	○			○		○		
29	○			環境保全対策	自動車整備に関する総合診断として、サービス産業としての自動車整備事業の役務と接客の基本手法について学習する。環境保全の現状とその必要性及び自動車に関わる環境問題について学習する。資源の有効利用と産業廃棄物の処理方法について学習する。安全管理の重要性及び労働災害の防止方法について学習する。	3年前期	30	1	○			○		○		

(工業専門課程 一級自動車整備科)																
	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
30	○			検査機器	自動車の整備工具及び検査機器について、その構造、機能、原理、特徴、測定方法、取り扱いの注意事項等を学習する。	2年後期	38	1	○			○		○		
31	○			検査法	道路運送車両（保安基準）の知識を身に着ける。	2年後期	30	1	○			○		○		
32	○			法規	道路運送車両法の学習	2年前期	30	1	○			○		○		
33	○			機器検査関係法規	自動車技術の進歩により整備作業が高度化・複雑化しているため、最新機器を使用した点検方法を学ぶ必要があります。この授業では、作業機器・測定機器・検査用機器の取り扱い方法や、自動車整備士に必要な関連法令（道路運送車両法・審査事務規程）に基づく検査方法を学びます。	3年後期	30	1	○			○		○		
34	○			業界研究	この授業では、自動車業界に関連する項目を、新聞記事、自動車新聞、及び月刊・自動車工学の中から抜粋し、記事の内容を把握し、及びクラスで発表してもらう。そうすることで、今後の自動車業界について考えてもらう。	4年通期	60	2	○			○		○		
35	○			ID研究	「職業訓練指導員（自動車整備科）」資格取得を視野に入れながら指導員として求められるスキル、コンプライアンス等に関して講義する。また、同学年で実施する指導員実習と連動して進める事により、知識レベルだけでなく指導技術についても身に付けていく。	3年前期	30	1	○			○		○		
36	○			工作作業実習※1	各種機械工作機器・作業用工具等の使用方法、取り扱いを習熟させる。電子工作から、プログラム制御を理解させる。	1年前期	26	1			○	○		○		
37	○			機械加工応用測定実習※2	金属加工のうち、手仕上げ加工の作業における基本姿勢及び使用する工具の取り扱い方法並びに各種工作機械の安全な使用方法について学習する。	3年前期	30	1			○	○		○		
38	○			測定作業実習※1	計測機器の基本的な取り扱い及び測定作業とその応用ができるように習熟させる。	1年前期	54	1			○	○		○		
39	○			エンジン実習I	エンジンに関する基礎知識と技術を習得する。	1年通期	##	5			○	○		○		

(工業専門課程 一級自動車整備科)															
分類	授業科目名			授業科目概要	配当 年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
								講 義	演 習	実 験・ 実 習・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
必修	選択必修	自由選択													
40	○		エンジン実習Ⅱ	1年時に学んだガソリン・エンジン及び、ジゼル・エンジンの本体や各装置の基本的な整備技術を理解した上で、より高度な整備技術や、エンジンの点検及び調整方法を身に付ける。	2年 通期	##	5			○	○		○		
41	○		シャシ実習Ⅰ	シャシの基本実習を行うことにより、整備の基礎知識や基礎技術の習得を図る。	1年 通期	##	5			○	○		○		
42	○		シャシ実習Ⅱ	1年次に体得した基礎知識を基にその応用実習で、整備地識や技術の向上を図る。不具合現象の確認ができ、的確な故障診断ができる知識を習得する。	2年 通期	##	5			○	○		○		
43	○		電装実習Ⅰ	次の各装置について、学科授業と連動させた内容で構造作動を学習する。電子・電気関係・電磁石・電磁誘導・半導体・バッテリー・始動装置・充電装置・点火装置・灯火装置・計器類・冷暖房装置	1年 通期	##	5			○	○		○		
44	○		電装実習Ⅱ	1年次に習得した基礎知識を土台に応用力を身に付け整備技術、能力の幅を広げる。電気回路の故障診断に必要な外部診断機、テスト類の取り扱いが出来る技術を習得させる。	2年 通期	##	5			○	○		○		
45	○		総合実習Ⅰ	自動車の日常点検及び新車無料点検の内容を学習し、作業内容や点検結果を説明出来る応酬話を身につける。整備士として必要な知識でもある積載車（ウインチ）の取り扱いについて学習し安全作業を身につける。また、自動車以外の幅広い知識を身につける為、二輪自動車の構造を学習する。	1年 後期	80	2			○	○		○		
46	○		総合実習Ⅱ	自動車の定期点検整備の内容を学習し、作業内容や点検結果を説明するだけでなく整備士として、お客様へ車のメンテナンスや安全へアドバイスが出来るよう接客応酬話を身につける。日々進化する自動車の自動運転や自動ブレーキ技術に使用されている電装部品（センサなど）に対しての、調整方法を学習し実施する。また、自動車の点検方法だけではなく二輪自動車の点検方法を理解し知識を身につける。	2年 前期	##	3			○	○		○		
47	○		企業技術講習Ⅰ	国内外の自動車メーカーや自動車販売会社様の協力により行う技術講習会にて最新技術や業界の近況を学ぶ。	1年 通期	60	2			○	○		○	○	

(工業専門課程 一級自動車整備科)															
分類	授業科目名			授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
								講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
必修	選択必修	自由選択													
48	○		企業技術講習Ⅱ	いすゞ自動車(株)教育部と連携し、大型車両の電子制御、排気システムなど整備技術を学ぶ	3年 通期	40	1			○	○			○	○
49	○		高度エンジン整備実習	エンジンの不具合原因の診断に必要な内部理解を深める事を念頭に分解・測定を行い組付・試走を行う。電子制御式燃料噴射装置、電子点火装置等、エンジン系の電気回路の点検を習得させる。筒内噴射式エンジン等の点検・分解に加え、輸入車のエンジンについても構造の違いを理解させる。	3年 通期	##	4			○	○			○	
50	○		高度シャシ整備実習	基本点検やボデーコート、洗車等の新卒として就職した際に最初に与えられる仕事に近い内容からスタートし、お客様のお車を大切に扱う意識を養成する事から始める。以降は電子制御式のAT・CVT・EPS・HV用トランスアクスルを中心に実習。	3年 前期	##	4			○	○			○	
51	○		応用電装品整備実習	電気回路の故障原因の断線、又は短絡点検を行う為に電気の基礎を再度、学習・確認し、直流・交流・半導体について、回路を製作しながら実験を行い理解を深める。自動車の電気回路について、車両を使用し点検・診断の作業手順を理解させる。衝突被害ブレーキ(自動ブレーキ)、自動運転の制御プログラムを理解する。	3年 通期	##	4			○	○			○	
52	○		ネオ・モビリティ研究Ⅰ	EVやFCV、ドローンなど、今後のモビリティ(移動手段)について、学生が研究し作成・発表の場とする。	3年 通期	80	2			○	○			○	
53	○		高度故障探究実習※2	実際に実習車に故障を設定し、又は班毎に設定させ不具合原因を見つけ出すための手段を習得させる。各種診断機器を活用し、作業効率の良い手順に加え、五感を活用した診断方法を習得させる。	3年 後期	80	2			○	○			○	
54	○		検査作業実習	自動車の車検、検査作業の知識と技術を習得する。	2年 後期	64	2			○	○			○	
55	○		自動車検査作業実習	道路運送車両の保安基準に照らして、自動車基準に適合していることを確認するための検査方法を学習する。	3年 後期	30	1			○	○			○	
56	○		指導員実習(テクニカルコミュニケーション)	指導者として求められる人間力として立ち振る舞いや話し方、プレゼン力、説明力について磨いていく。加えて、自動車業界のグローバルリーダーとなる為、英語教育を通して視野の広い指導者としての考え方を磨く。	3年 後期	60	2			○	○			○	

(工業専門課程 一級自動車整備科)															
分類	授業科目名			授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
								講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
必修	選択必修	自由選択													
57	○		技術コンクール指導実習	校内整備技術大会、及び整備振興会技術コンクールに向けて、4年生はリーダーシップを発揮し、下級生を指導して【TA制度】大会に挑む。外部診断機、サーキット・テスタ、計測機器等を駆使して。計測、1年定期点検整備項目、学科の各パートの合計で得点を競い合う。	4年前期	32	1			○	○		○		
58	○		実務体験実習Ⅰ	各学生内定先にて体験実習を行う。各社と打合せを行い、「点検実習」「故障探求」「総合診断」をバランス良く実作業の中で体験、指導して頂く。	4年前期	##	4			○		○	○	○	
59	○		実務体験実習Ⅱ	各学生内定先にて体験実習を行う。各社と打合せを行い、「点検実習」「故障探求」「総合診断」をバランス良く実作業の中で体験、指導して頂く。	4年後期	##	4			○		○	○	○	
60	○		点検整備実習	自動車の日常点検項目及び定期点検項目の点検内容に従って点検の実施方法を習得する。(記録簿、点検シート記載含む)各種点検機器の正しい使い方の講義、実習を行う。	4年通期	##	4			○	○		○		
61	○		エンジン故障診断実習	エンジンの故障診断を外部診断機のダイアグノーシス、データモニター、修理書、配線図を使用して総合的に判断して不具合箇所を特定する。	4年通期	##	4			○	○		○		
62	○		シャシ故障診断実習	シャシに関する故障診断を行い、故障探求の基本的な流れを講義する。最新の外部診断機を使用し、サーキットテスタ、オシロスコープ等の計測機器との連携診断方法を講義、実習させる。	4年通期	##	4			○	○		○		
63	○		電装品故障診断実習	国家試験に関係の有るオシロスコープ、デジタルテスターの理解を深める。今後モーター制御の理解が必要になる為、PWM制御、ステップモーター制御の理解を深める。マイコンの基本的なプログラムについて理解を深める。	4年通期	##	4			○	○		○		
64	○		サービス・マイスター実習	整備知識、技術のみならず、昨今の整備業界に求められるサービススキルを醸成すべく、ビジネスの場でのサービス接遇というものを具体的な考え方、行動の仕方、話し方などを学ぶことでキャリアアップの一助とする。サービス接遇実務検定2級取得を目指す。	4年通期	60	2			○	○		○		
65	○		ネオ・モビリティ研究Ⅱ	「ネオ・モビリティ研究Ⅰ」にて研究した内容を更に深く研究・作成した内容の発表の場とする。もしくは「ネオ・モビリティ研究Ⅰ」とは違うモビリティについて研究・作成・発表する。	4年通期	80	2			○	○		○		
66	○		MOTOテクノロジー	EVやFCVなどの自動車はもちろんだが、二輪自動車についても構造研究や発表を行うことで、あらゆるモビリティに精通した自動車整備士をめざす。	3年前期	30	1			○	○		○		

(工業専門課程 一級自動車整備科)																
分類	必修	選択必修	自由選択	授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
									講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
	67	○		総合診断実習	総合診断（応対・接客・問診・説明）を習得する。	4年後期	30	1			○	○		○		
	68	○		キャリアデザインⅠ	学校行事（入学式・体育大会・消防訓練・ほりかわ祭・国内研修等）や就職研修を通して社会人を身につける。資格取得（危険物取扱者）に向けた模擬試験を通じて目的と目標の立て方とクリアする力を身につける。	1年通期	30	1	○			○		○		
	69	○		キャリアデザインⅡ	就職活動に向けた研修 資格取得に向けた模擬試験 JAMCA全国統一模擬試験に向けた対策授業	3年通期	30	1	○			○		○		
	70	○		キャリアデザインⅢ	新社会人としての研修 資格取得に向けた模擬試験 JAMCA全国統一模擬試験に向けた対策授業	4年通期	30	1	○			○		○		
	71	○		接客応酬話法Ⅰ	さまざまなサービスの現場で求められる「ヒューマンスキル」を身につけ「お客さまへの対応能力」を身につける。	2年前期	30	1	○			○		○		
	73	○		損害保険募集人	損害保険の募集に携わるため、保険契約者の利益を損なうことなく、適正な保険募集を行うために必要な知識を十分身に着ける。基礎単位：損害保険の基礎や募集コンプライアンスなど損害保険の募集のための基礎的な知識の習得 自動車単位：自動車保険の仕組みや契約条件、管理、周辺知識の習得	2年前期	30	1	○			○		○		
合計						72 科目		137(4468) 単位 (単位時間)								

卒業要件及び履修方法		授業期間等		
<p>卒業要件：</p> <p>工作作業実習と測定作業実習は2 教科の合計で2 単位とする。 機械加工応用測定実習と高度故障探究実習は2 教科の合計で3 単位とする。 卒業の要件：1・2年次の必修科目（国土交通省履修基準）65 単位および、一般教養科目の必修3 単位以上を含む、合計68 単位以上の履修。3・4年次 3・4年次の必修科目（国土交通省履修基準）66 単位および、一般教養科目の必修2 単位を含む68 単位以上に1・2年次の68 単位を加えた合計136 単位以上の履修。 但し、上記の単位を取得した場合であっても、別途国土交通省が定める必要時間数を履修していない場合は、実技試験の免除及び実務経験の短縮の措置が受けられない。</p>		1 学年の学期区分		2 期
<p>履修方法：</p> <p>講義（座学）、実技、実習については、90 分×15 週（22.5 時間）の授業をもって1 単位とする（ただし同時間の予習・復習・課題実施が前提）。履修科目については前期、後期、通年科目があり、受講対象科目の出席率は90%以上であること。定期試験等の実施により成績判定を行う。一級自動車整備科3 年次以上の授業を受講するためには2 年次までの規定単位を修得していることに加えて、「二級ガソリン自動車整備士」、及び「二級ジーゼル自動車整備士」の資格を要す。</p>		1 学期の授業期間		15 週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3（3）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。